

くらしと協同をたずねて

住民の協同による地域の課題解決 ～三重県松阪市柚原町の取り組み～

下門 直人 (京都大学大学院経済学研究科博士後期課程)

はじめに

近年、日本のいたるところで見られるようになった中山間地域の過疎地は、買い物する場所がない、金融機関へのアクセスがない、高い高齢化率などといった固有の困難や課題を抱えている。そうした地域の住民が抱える困難の解消や課題解決は容易ではない。それどころか、一般的には人口流出や超高齢化などが原因となり、その多くは衰退する傾向にある。

しかし、本稿で取り上げる柚原町のように、買い物難民化、金融難民化、高齢化といった事態に直面しながらも、地域住民が中心となり、自分たちの暮らしを守るために多様な取り組みに挑戦している地域も存在する。

本稿では、柚原町の取り組みを紹介しながら、直面する困難や課題とどのように向き合い、地域での営みを続けるためには何が必要なのか考えてみたい。以下の内容は、大石正幸自治会長をはじめ、自治会女性部の西井玉枝氏、竹谷信江氏、簡易郵便局局員の中野直美氏らへのインタビューに基づく。

柚原町の概要

柚原（ゆのはら）町は、三重県松阪市の中山間地域にある小さな集落である。現在

の松阪市は市町村合併を繰り返す中で誕生した、県西部の山間部も含む広域な自治体である。柚原町は松阪市内のそうした山間部にあり、市の中心からは車で 30 ～ 40 分ほどのところに立地している。

松阪市に合併される以前の柚原町は、近隣の後山町、飯福田町、与原町とともに旧宇気郷（うきさと）村を形成する一つの地区であった。旧宇気郷村を単位とした宇気郷地区には、99 世帯・174 人（柚原町：47 世帯・83 人、後山町：15 世帯・26 人、飯福田町：9 世帯・13 人、与原町：28 世帯・52 人）が暮らしており、高齢化率が 68% となっている（2017 年 12 月 1 日時点）。

また、松阪市の一部となってからも宇気郷地区が一つの自治単位として機能しており、柚原町の運営においては柚原町の自治会や宇気郷地区の住民協議会が中心的役割を果たしている。

柚原町は典型的な中山間地域であり、地形的に平地が少ないため歴史的には農業が主要な産業になったことはなく、歴史的には林業と自家消費用の農業で成り立っていた。それぞれの家は大小の違いはあるものの山林を所有しており、20 ～ 30 年前まではそこから伐採される木材の販売と家族が食べていけるほどの米の生産で暮らしていた。その当時は町内に製材屋が 4 軒ほどあり、松阪市内からやってくる仲買人が山の木を見て「もうこの木は家の柱になるから」と言って木材を購入していた。また、市内

の風呂屋が薪を買いにくるため、薪になりそうな木材・枝集めは子どもの仕事であり、小遣い稼ぎにもなっていた。

しかし、そうした柚原町の営みは、輸入材との価格競争や住宅建設における木材需要の低下という2つの要因が重なり、林業による収入が減るなかで次第に崩れてきた。杉は50年で家の柱になると言われるが、商品として売れないため、50年以上経っても伐採されずそのままにされ、その影響で今では山が黒くなっている。

また、仕事と子育てのため、若い世帯が都市部へ流出し、その結果、現在ではこれ以上の人口流出はないという状態で落ち着いている。従って、70～80歳代が柚原町の中心的な世代となっている。

こうした過疎化の進行と並行して、1987年に松阪市立柚原小学校が廃校となった。そして1993年に宇気郷郵便局が廃止、その後、松阪市が柚原簡易郵便局として委託運営していたが、それも郵政民営化にともない2007年に廃止された。さらに、農協の合併・広域化が進められるなか、同年にJA宇気郷出張所も撤退することとなった。つまり、2000年代に入り柚原町は、買い物をする店舗をはじめ、年金や預貯金をおろすための金融機関もなくなるという事態に直面する。

以上のことからわかるように、柚原町は多くの課題を抱える典型的な中山間地域の一つであり、そうした地域が共通して直面する困難や課題も抱えている。こうした条件のもと、宇気郷住民協議会は柚原町をはじめ、宇気郷地区を「買い物難民」「金融難民」「老人難民」地域として捉え、宇気郷住民協議会、柚原町自治会、地域住民が協力し合うことで暮らしを守り、さらには新たな暮らしのかたちをつくりだしている。



柚原町の入り口にあるバス停と「ここは元開集落柚原町」と書かれた看板。少しでも元気になるようにとの思いから「元開」と表記している。



旧柚原小学校の建物は宇気郷地区の市民センターや公民館として利用されている。

自治会が運営する簡易郵便局

柚原町には宇気郷村時代に設立された特定郵便局があったが、1993年に不採算を理由に廃止されてしまった。その当時は松阪市が過疎地対策の一環として市民センター内に併設するかたちで簡易郵便局を運営していたが、郵政民営化により行政が民間企業の事業運営を行うことは不適切という理由から、2007年に簡易郵便局の廃止が決定された¹⁾。すでにJA宇気郷出張所も撤退していたため、簡易郵便局の廃止は金融機関・機能の消滅、ならびに町民の金融難民化を意味していた。



簡易郵便局とみんなの店が入居する
旧 JA 宇気郷出張所の建物。



郵便局とみんなの店の入口は別だが
建物内でつながっており自由に行き来できる。

簡易郵便局を日本郵便株式会社から委託を受け運営するためには 500 万円の資産が必要であり、地域に郵便局が必要だからといって簡単に開局できるものではない²⁾。こうした制約があるなか、柚原町では住民と自治会長をはじめとした自治会が一体となり、自治会が保有していた土地の売却金や積立金を原資として 500 万円を用意し、自治会が受託者となり松阪柚原簡易郵便局の開局を実現させた。2007 年 4 月末に松阪市による運営が終わり、2007 年 5 月 14 日から自治会の運営が始まっていることから、住民の不安に対して自治会がいかに素早く対応したかがよくわかる。

自治会は簡易郵便局運営の委託料として年間約 370 万円の収入があるが、この金額は光熱費などの運営費と局員一人分の給与と社会保険料を支払えるぎりぎりの水準であり、郵便局長は現自治会長の 大石氏がボランティアで務めている。

自治会と住民が協同してつくる 「みんなの店」

柚原町には郵便局開局と同様の理由で、つまり、買い物難民を出さないという目的のため、自治会と住民が協同してつくる店舗「コミュニティうきさとみんなの店」がある。みんなの店には日用品や雑貨、長期保存の効く食料品が揃えられており、生鮮食品以外の生活必需品については概ねみんなの店で入手できる。

郵便局廃止と同時期の 2007 年 4 月末に、柚原町に唯一存在していた店舗、JA 松阪宇気郷出張所が撤退することになり、住民は町から店が消滅してしまうことに危機感を抱いていた。なぜなら、JA の店舗がなくなると、買い物をするためには車か一日数本のバスを利用し、数十分かけて街中へ出なければならなくなるからである。つまり、柚原町のような集落において、店舗の消滅は住民の日常生活に大きな不便を強いることになる。

住民の買い物難民化を避けるため、自治会では会員の総意（柚原町全住民の総意）により、自治会が経営主体となる店舗の開設が決定された。開設のために必要な資金は、全世帯が 1 万円ずつ出資し、さらに元柚原町民など町外の人からの支援で賄われた。その結果、JA の撤退から約 3 ヶ月後の 2007 年 7 月 16 日に元 JA 店舗に無事に開店させている。

みんなのお店の経営主体は自治会となっているが、店舗運営費の負担や店舗運営は柚原町の住民が一体となって支えており、実際の経営は住民の積極的な関わりがなければ成立しない仕組みとなっている。例えば、店舗の光熱費や設備維持にかかる運営経費は、1世帯あたり1ヵ月1000円×約40世帯の自治会費約4万円で賄われている。また、従業員を雇用するための資金はないため、店舗の日常業務は自治会女性部の有志6人がボランティアとして日替わりで担っている。店番をしてくれる女性たちには1日3000円の手当が支払われるが、実質的には無償ボランティアにちかい。

みんなの店は、平日午前9時から午後4時30分まで開店しており、1日平均7000円～8000円の売上となっている。1日あたりの来客数は10人前後であり、柚原町民を中心に、旧宇気郷村の後山町、飯福田町、与原町からも買いに来てくれている。ただ、近隣スーパーへの買い物バスの運行やネット通販の発達により商品購入の機会が改善されている側面もあり、経営としては厳しい状況が続いている。

以上のことからわかるように、来客数・売上ともにけっして多くなく、経営としても厳しい状況が続いている。しかし、みんなの店は住民にとって日用品を購入できる貴重な場であると同時に、住民が集い、交流できるコミュニティの場としても機能している。

コミュニティの場として象徴的なのは、秋から冬、そして春先にかけて大活躍する大きなストーブとその周りに自然に集う人々だ（写真参照）。ストーブは店の開店中ずっと焚いているため大量の薪を必要とし、一見、冬場の燃料費が経営を圧迫しそうである。しかし、近隣の森林組合から軽トラの荷台一杯分の薪を1000円で調達し

ており、森林組合の協力によって燃料費は安価に抑えられている。

また、住民は山で取れた山菜を自由にみんなの店で販売することもでき、買い物をするという行為以外にも山菜の販売やストーブにあたりに来るなど多様な目的に沿って日常的に利用している。



みんなの店では日用雑貨や長期保存可能な食料品が販売されている。生鮮食品は販売されていない。



ストーブの周りに集まって団らんする様子。
※みんなの店に掲示されていた写真を借用

「食事処うきさとむら」と 柚原の女性

「食事処うきさとむら（以下、うきさとむら）」は、みんなの店と同じように自治会女性部の有志により経営されている小さ

なレストランである。うきさとむらは郵便局やみんなの店よりも歴史が古く、自治会の女性グループが中心となって 1992 年に元村役場の建物を利用してオープンした。

柚原町の自治会女性部は、現在の柚原町のコミュニティを維持する上で重要な役割を果たしており、柚原町のために自主的に様々な活動に取り組んできた歴史をもつ。

女性たちの活動は 1980 年頃から始まる。当時、宇気郷小学校校長であった吉田米子氏のアドバイスで、当時の柚原町婦人会が柚原町の荒廃地をなくそうと、みょうがや豆類、漬物などを作り、子どもたちと一緒に街中で販売する取り組みを始めた。それが女性たちのその後の多様な活動の契機となっている。つまり、長年にわたる女性たちの活動の積み重ねが柚原町にとって大きな財産となり、現在のコミュニティを支える条件の一つとなっている。

また、うきさとむらはコミュニティ・ビジネスとしての側面も有している。うきさとむらで提供されている商品は、基本的に地元の松阪産や三重県産の農産物が使われ、さらにそれらを使って柚原町の特産品となるような商品開発を積極的に行ってきた。例えば、モロヘイヤを練りこんだモロヘイヤうどんや新鮮な若鶏を使った焼肉や唐揚げ、よもぎ餅などは人気メニューとなり、今では柚原町の特産品となっている。

これらのうち若鶏の焼肉と唐揚げは、株式会社フーズクリエーションが経営するジャズドリーム長島のナガシマキッチンで提供されており、そこでも人気商品である。現在は若鶏の唐揚げが提供され、うきさとむらが唐揚げのスパイスをフーズクリエーションに販売している。さらに、柚原町へ訪れた社長は地域貢献への思いから、うきさとむらのメニュー一食の販売につき 10 円を柚原町に寄付している。この寄付金収

入が年間 60 万円ほどあり、宇気郷住民協議会が週一回運行している買い物バスの無料運行を実現させている。

さらに興味深いことに、この買い物バスは、その目的地であるマックスバリュからも住民の買い物量に応じた寄付を受けており、多くの人や組織に支えられながら実現されている。



食事処うきさとむらを運営している自治会女性部メンバーの西井玉枝さんとそのひ孫さん。



「食事処うきさとむら」の名物であるモロヘイヤうどんと若鶏の唐揚げ定食。

元住民とのつながり

柚原町の大きな特徴として、柚原町から流出してしまった元柚原町民との間に未だ

に多様なつながりを持ち続けている点がある。

具体的には、元住民に対して『公民館だより』や『住民協議会だより』を送付し、柚原町からの連絡や行事案内を定期的に配信したり、彼らの土地の山林や雑草が荒れ始めると、その整理や草刈のお願いの連絡をしたりしている。そうした連絡を受けると、週末に子どもを連れてきて道草刈や山の枝拾いをしてくれ、帰りにみんなの店で買い物をしてくれるそうだ。

気軽に柚原町に戻ってこられる背景には、元住民の多くが柚原町から比較的近い松阪市街や中川などの地域に居住していることがある。それに加え、現在柚原町外に住む多くの人々は子ども時代に柚原町で過ごしており、当然のことながら柚原町に対する思い入れや愛着があると思われる。

おわりに

統計データなどの数字のみで柚原町を捉えようとすると、確かに中山間地域によくみられる限界集落の一つであるようにみえる。しかし、実際の柚原町は住民が中心となりながらも外部の人や組織を巻き込み、「自分たちの暮らしは自分たちで作り、守る」ことを実現させている。

フーズクリエーションやマックスバリュ以外にも、近隣のパン屋や豆腐屋、ヤクルトレディが週一回程度の移動販売をしている。これらは住民が実現しないだろうと思いつながらも、柚原町の実情を伝え、お願いしたところ、快く引き受けてくれたためである。

つまり、柚原町には簡単に諦めず、自分たちで困難を克服しようとする住民がいる。そして、その住民の姿勢が元住民や企

業などの外部の人や組織を惹きつけ、柚原町のために自分たちも協力したいと思わせるような魅力となっているように思われる。



大石正幸さん（柚原町自治会長：右）、
藤本真司さん（宇気郷地区市民センター所長：中右）、
中野直美さん（簡易郵便局局員：中左）、
竹谷信江さん（自治会女性部メンバー：左）

注

- 1) 『中日新聞』2007年9月26日付。
- 2) 簡易郵便局を受託するための資格条件の一つに純資産という項目があり、個人の場合は300万円以上、法人の場合は500万円以上の資産が必要。